



社会福祉法人

熊本いのちの電話

KUMAMOTO INOCHINODENWA

通信 61号[事業報告] 平成30年7月



いのちを休める場所は いつでもすぐ近くに。

浄土宗西山禅林寺派 蓮台寺資
僧侶 浅野 智弘

私たちの住む日本はとても豊かです。安全な住まい、しっかりした教育、福祉や医療も優秀です。お買い物はインターネットや電話一本で、ほしいものはとても早く届きます。全自動の洗濯機はボタン一つでOK、新幹線や飛行機は遠い距離もあっという間に移動できます。そして最近ではAI(人工知能)の発展もめざましく、これから世の中はますます便利になっていくでしょう。技術は労力を減らし、効率を良くし、時間を生み出すための仕組みです。本当に素晴らしいことだと思います。多くの方々のアイデアや工夫が実現され発展してきたのです。

ただ、その一方で現代の人々は昔に比べてその分ゆっくりできているのでしょうか。むしろ、携帯電話を持った現代人は、もしかしたらかえって忙しくなっているかもしれません。常に仕事や連絡を取り合ったり、いろいろなことができるようになり、マルチタスクと言われるようになりました。いくつかの作業を同時並行でやることです。仕事をしながらニュースも見つつメールを返信したり、ごはんを食べながらインターネットで調べもの・買い物・ゲーム、移動しながら身づくりい・SNS・ウェブ閲覧など。時には睡眠の時間すら削ってさまざまなことをしているのに、昔より現代の人のほうが「時間がない」という感覚が強いのです。場合によっては強迫的に「何かし

なければ」という感覚に追われていることもあります。

ゆたかで便利なものがたくさんあるのは素晴らしいことですが、忙しさが「心を亡くす」と書くのは有名なことです。忙しい毎日の流れの中で、ここはいつのまにか置き去りにされ、水が淀んだ場所ではそれが汚れていくように、吐き出せない思いは鬱々と腹の底にたまっていってしまう。そうならないように、時にはここを休め、気持ちを整理したりモヤモヤをスッキリさせたりなど、内面に目を向けてあげる時間はとても大切です。そして忙しい現代だからこそ、いのちの電話の存在は大きい。距離を問わず時間を問わず名前を問わず、安心してなんでも話していい、いのちを休められる慈しみに満ちた場所なのです。仏教に「慈悲」という言葉がありますが、これは「友として寄り添うこと」をあらわします。電話をかければ親しい友人のように寄り添ってくれる相談員さんは、全員が無償で取り組まれておられます。まさに慈悲の人だと頭が下がる思いです。

最後になりましたが、いのちの電話相談員のみなさまに、そしてこの活動を賛助される企業や個人のみなさまの尊いお支えに、心から手を合わせ巻頭の言葉と申し上げます。

合掌

通信61号 目次

巻頭言	P1	2018年度事業計画	P9
いのちの発信	P2	2017年度感謝報告	P10
2017年電話相談の概況	P4	説明会、開講式、受講者の声	P12
2017年度事業報告	P6	認定式、全体研修会	P14
2017年度決算報告	P8	役員名簿、事務局日誌、編集後記	巻末

相談電話 096・353・4343

悲しみの中にある慰め

—「対話」と「つながり」から悲嘆ケアを考える—



松村さおり（まつむら・さおり）プロフィール

香川県高松市生まれ。2007年同志社女子大学 現代社会学部卒業。在学中に入院したことがきっかけで牧師を志す。卒業後、同志社大学院神学研究科に進学し、実践神学を学ぶ。礼拝学、牧会カウンセリングを中心に学び、修士論文のテーマは「死別悲嘆-教会における牧会ケアの可能性」。卒業後は日本キリスト教団札幌北光協会（北海道札幌市）の副牧師を3年間務め、2013年4月から医療法人愛和会愛和病院のチャプレン（施設付き牧師）として働き始める。現在は日本キリスト教団軽井沢教会牧師も兼務している。

きっかけ

十年前に、大切な人を突然失いました。アメリカに短期の研修に出かけている最中のことでした。研修中のある日、日本から電話がありました。結婚を考えていた人から「体調がとても悪いから日本に戻ってきてほしい」ということでした。しかし、アメリカでの研修というチャンスをいただき、意気込んでいた私は「帰る」という返事ができなかつたのです。どうしてあの時、自分に与えられたチャンスと、大切な人を天秤にかけるようなことをしてしまったのだろうと今でも後悔しています。結局、それが最後の会話になりました。数日後に、亡くなったという電話がかかってきました。十年経った今も、電話の言葉をはっきりと覚えています。「どうして」と泣き叫ぶ私を、側にいた人が抱えていてくれました。それから、一時帰国して葬儀に出席し、再び研修に戻りました。研修期間中は距離があるので、亡くなったことを考えずにすみます。まだ生きているとどこかで考えていたのでしょうか。けれども、日本に戻ると死別は現実のものだということを否が応でも感じます。自分の気持ちがうまくコントロールできず、悲しみや、不安、寂しさに押しつぶされそうでした。周りに支えてくれる人がいたにも関わらず、いのちを絶ってしまった方が楽だと何度も考えました。それでもどこかに生きようとする気持ちがあったのでしょうか。自分に今何が起きているのかを勉強するようになり、それを修士論文の

テーマにしました。そして今もライフワークとして勉強を続けています。

死別後に起きること

大切な人を亡くすと、様々な感情が湧き起こります。悲しみや不安、孤独感だけではありません。「どうして先に逝ってしまったのか」という怒り、「もっとできることがあったのではないか」という後悔や罪悪感など。しかし、全てが辛い感情ばかりではありません。故人に対する感謝や、「故人がもう苦しまなくてもよいのだ」という安心感、「ちゃんと見送れた」という開放感を感じることもあります。また、死別後に起こるのは情緒面の変化だけではなく、喉がつかえたり、息苦しさが続いたりする身体面の変化、まだ故人が生きていると感じたり、混乱したりする認知面の変化、不眠、食欲不振、引きこもりなどの行動面の変化が起こります。これらの変化は、順番に起きるのではなく、同時多発的に起こります。死別を経験した人は、大きな変化の中に置かれています。

悲嘆の過程

死別後に起こる様々な変化を悲嘆反応と呼びます。先に書いたように「悲嘆」というのはただ悲しみだけを表現しているのではないのです。

悲嘆反応は、本人にとって予想もしていないことです。亡くなる前、どんなに覚悟をしていても、悲

嘆反応が起きないことはありません。立ち直りたいと思っても、自分ではどうすることもできない場合が多いものです。また、周りにいる人たちも「なんとか回復してもらいたい」と思うのですが、どうすればよいのか分からないことがあります。わたしは、悲嘆ケアのゴールは「立ち直り」や「回復」ではないと考えています。死は揺るがし難いもので、どう頑張ってもその人が亡くなる前の状態には戻らないからです。それでも、自分に残されたいのちを生きていかなければなりません。では、悲嘆とどのように向き合えばよいのでしょうか。よく「時間が解決してくれる」と言います。もちろん、それもある意味で真実なのですが、ただ時間が経てば悲嘆と折り合いがつけられるわけではありません。J・W ウォーデンは悲嘆の営みには課題があるといます。

- 課題Ⅰ 喪失の現実を受け入れること
- 課題Ⅱ 悲嘆の痛みを消化していくこと
- 課題Ⅲ 故人のいない世界に適応すること
- 課題Ⅳ 新たな人生を歩み始める途上において、故人との継続的なつながりを見い出すこと

これらの課題は順番にクリアしていくものではありません。本人が意識していなくても、順不同、流動的に行っているものかもしれません。ただ、これらの課題に取り組むことを妨げるものがあり、行えないという場合もあります。周りの人から、「悲しみすぎると良くない」、「泣いたら亡くなった人が悲しむ」と言われて我慢をする、忙しくて考えないようにする、忘れようとする、それらによって一時的には落ち着いて見えても、消化できない悲嘆は残り続けます。

悲嘆ケアとは

悲嘆ケアとは、悲嘆を感じさせないことではありません。悲嘆の中にある人を見守り、そのまま受け止め、大切な人がなくなった世界で生きていくことができるように援助することです。特殊な場合を除いて、誰もが悲嘆ケアを担うことができます。ケアをする上で大切なことは、その人をありのまま受け止めることです。亡くなって数週間という時期でも、しばらくの時が経っていたとしても、「ありのままがいい」というメッセージは相手に安心と信頼を与えます。アドバイスや自分の話は控えた方がいいでしょう。なぜなら、悲嘆は同じように見えたとしても、その人固有のもので、相手と自分の悲嘆は違うからです。私の場合はこうだったと話しても、

有効でない場合が多いのです。たとえ、自分も同じような経験をしていたとしても、そこから手を離して受け止めることがスタートです。もし、「自分のせいで死んだのだ」という間違った認知があったとしても、いったんはその気持ちを受け止め、話を聞いてから修正していきましょう。

対話と繋がり

わたしは、悲嘆ケアの鍵のひとつは「対話」ではないかと思っています。対話には生きている人との対話と、亡くなった人や、神様との対話の二つがあります。故人の話をタブー視する人もいるかもしれませんが、語らずにいることは悲嘆ケアから考えると決してよいことではありません。いい思い出も、悪い思い出も、物語る。そのことを通して、亡くなった人が自分にとってどんな存在であったかを知ることができます。しかし、語りの中で人間では答えが出ない問いがあることに気が付きます。「どうして死ななければならなかったのか」、「今わたしのことをどう思っているのだろうか」など。そのような問いを、亡くなった人に、あるいは神様に、もし信仰を持っていなくても人間存在を超えたものに投げかけ、対話をしていくのです。もちろん、すぐに答えは返ってきません。それでも、対話を重ねていくことは、いのちの意味、自分が残されてこれから生きる意味を知ることにつながります。

もう一つの鍵は「つながり」です。人間は、亡くなった人との「つながり」を感じるすることができます。「そばにいてくれる」という感覚がある人もいますし、その人の意思を引き継ぐことを通して、内在化させることもあるでしょう。「つながり」は亡くなった人とだけ結んでいるわけではありません。心配し、支え、受け止める人との間にも「つながり」は生まれ、このつながりが生きる力となります。

悲嘆ケアは、そのゴールを立ち直りや回復に置くと終わりがありません。悲嘆は一生抱き続けるものだからです。その道には山や谷があります。時には穏やかな道も現れるかもしれません。悲嘆ケアは長い時間のかかることです。しかし、対話とのつながりの積み重ねによって、悲しみつつも「生きる」ことができるはずなのです。

「涙とともに種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れられる。種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は 束ねた穂を背負い、喜びの歌をうたいながら帰ってくる」

聖書 詩篇126編5節～6節

※本文は社会福祉法人 長野いのちの電話の了解を得て、転載しています。

2017年電話相談の概況

1. 概要

2017年熊本のいのちの電話で受信した件数は表1のとおりで昨年よりも受信件数、時間ともに増加した。

これは熊本地震のため2016年には相談員の退会、休務等により受信態勢が弱体化したが、2017年は復帰、養成による相談員の増加、一人当たりの受信件数増により増加したものである。

表1 電話相談受信状況(対前年比)

	2017年	2016年	前年比	
受信件数	11,581件	10,753件	828件増	7.7%増
受信時間	5,589時間	5,055時間	534時間増	10.6%増

2. 月別受信状況

月別受信件数をグラフ1に示す。どの月も男性の方が多い。全体では4月～7月が多く秋冬が少ないがこれは相談体制による。

月別の自殺傾向件数をグラフ2に示す。どの月も相談件数は男性が多いが自殺傾向件数は女性が多い。

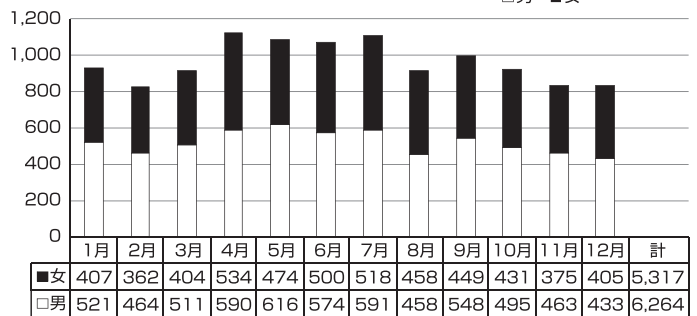
4月と9月に自殺傾向の相談件数が多いのは新年度を迎える時期と夏休み明けの時期と関係があるのか分析する必要がある。

表2に男女別の自殺傾向率を示す。女性からの相談が男性からに比べ自殺傾向率は約2倍になっている。

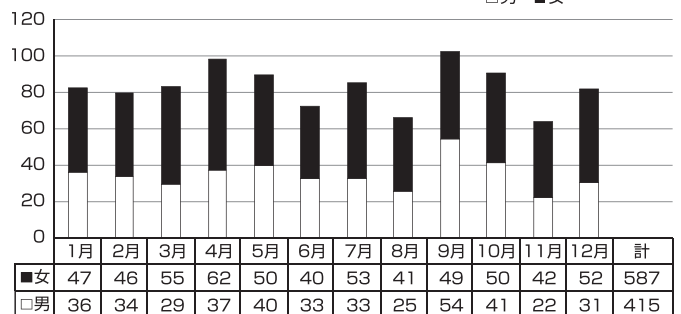
表2 自殺傾向率

	受信件数	自殺傾向件数	率(%)
女性	5,317件	587件	11.6%
男性	6,264件	415件	6.6%

グラフ1 月別受信件数



グラフ2 月別自殺傾向件数



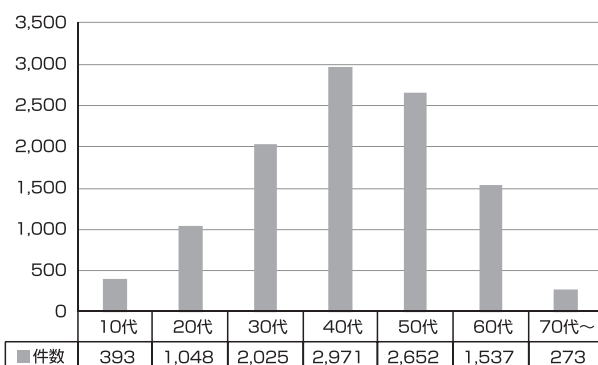
3. 利用者年齢分布

電話相談の利用者の年齢分布をグラフ3に示す。40代50代の利用者が多く、10代20代は少ない。

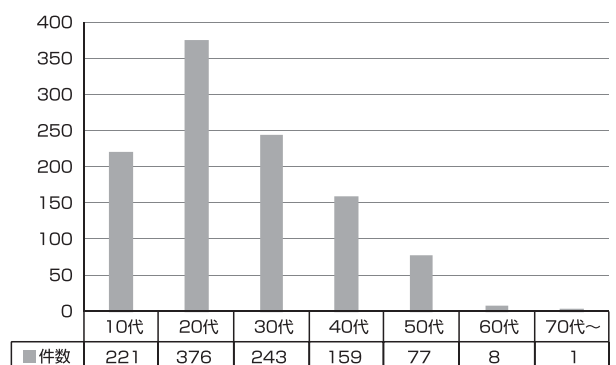
日本のいのちの電話連盟が実施しているインターネットを利用した相談の利用者の年齢分布をグラフ4に示す。電話相談の傾向と逆に10代20代が多い。

若年層の自殺が問題になっている今日、ネット相談を熊本でも開始する時が来ていると思われる。

グラフ3 電話相談利用者年齢分布



グラフ4 ネット相談利用者年齢分布(参考)



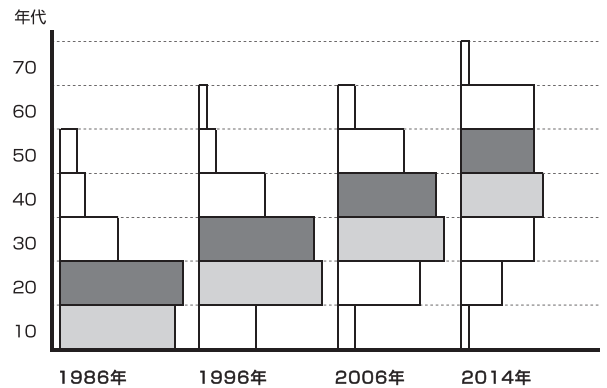
4. 電話相談利用者の年齢分布の推移

1986年から10年毎に電話相談利用者の年齢分布をグラフ5に示す。

1986年当時は10代20代の利用者が多い。その後10年が経過する毎に10歳ずつ利用者年齢のピークが移動している。このことから10代20代で電話相談を始めた人の塊が時代とともに移動しているように見える。

また、時代とともに新たな10代の利用者は少なくなっており、このままでは利用者は益々高齢化するばかりで若年層のために、ネット相談などの対応が急務と思われる。

グラフ5 電話相談年代分布の推移 (年代不明除く)



5. 相談内容の分析

電話相談は一件毎にいろいろな問題が複雑に絡み合っており、単純に分類することは難しい。

2017年の相談を主な項目に分類するとグラフ6のようになっており、精神、人生、家族、対人に関する相談件数で約6割を占めている。

具体的な相談項目を多い順に表3に示す。

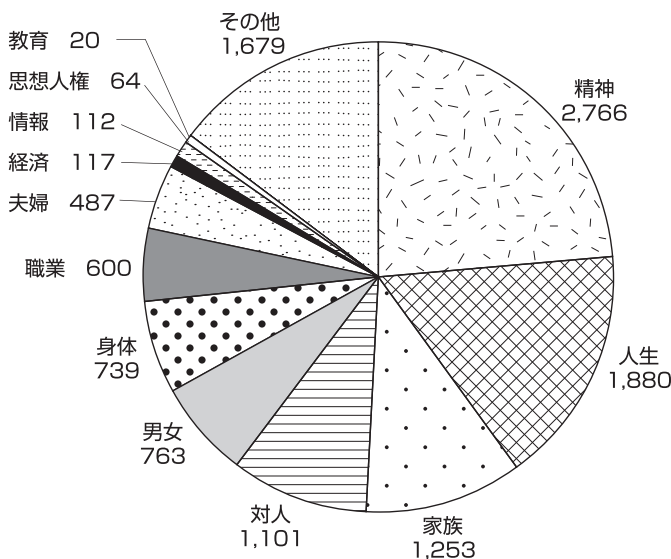
具体的相談項目としては、人生に対する生きがい、嗜癖行動、孤独、うつ、統合失調症、人との不和・トラブルが上位を占めている。

いずれにせよこれらのデータから相談の傾向を知り、自殺予防のために何をなすべきか、また電話相談員の研修にどう活用すべきか検討を深める必要がある。

表3 主な相談項目

相談項目	件数	割合(%)
人生に対する生きがい	907	7.8
嗜癖行動 (ギャンブル依存など)	724	6.3
孤独	702	6.1
うつ	640	5.5
統合失調症	545	4.7
人との不和・トラブル	514	4.4
家族への不満	419	3.6
恋愛	396	3.4
夫婦間不満	193	1.7
就職、転職、退職	132	1.1
仕事や上司との適性	122	1.1
いじめ	123	1.1
性	120	1.0
子育て	112	1.0
慢性疾患	109	0.9
上記以外	5,823	50.3
合計	11,581	100

グラフ6 内容分類件数



社会福祉法人 熊本いのちの電話

平成29年度(2017年度) 事業報告

1. 電話相談活動

(1) 熊本いのちの電話

総受信件数 11,581件 (総受信時間 5,589時間)

* 詳細は4～5頁「電話相談の概況」を参照のこと

(2) フリーダイヤル自殺予防いのちの電話

毎月10日 午前8時～24時間 (受信件数 584件)

(3) 熊本地震いのちの電話(フリーダイヤル)

受信件数 407件 (件数は前項(1)に含む)

※平成29年8月より連盟事業へ移行し、熊本地震FDプロジェクトが発足した。



相談活動



養成講座開講式



理事会



評議員会



深夜帯研究会

2. 研修活動

(1) 第34期 電話相談員 基礎講座

場所 熊本YMCA中央センター

①開講式 5月9日

②前期(公開講座) 5月9日～10月3日

③後期(養成講座) 10月17日～平成30年3月27日

④終了式 平成30年3月27日

(2) 第33期生2年目研修(スーパービジョン)

期間 4月～平成30年3月

人数 15名(男性2名・女性13名)

(3) 継続研修

各曜日班(7班編成) 毎月1回実施

(4) 全体研修

①6月18日 熊本県総合福祉センター(参加:78名)

テーマ:「希死念慮の高い掛け手への対応」

講師:後藤秀昭委員

②11月5日 熊本県総合福祉センター(参加:46名)

テーマ:「受信カード記録について」

講師:池田幸蔵委員

(5) 第42回 日本自殺予防シンポジウム

9月24日(日) つくば国際会議場大ホール(参加:研修委員2名)

基調講演:「絆でつむぐ自殺予防」

講師:高橋祥友氏

筑波大学医学医療系 災害・地域精神医学教授

(6) 研修指導検討会(研修委員・研修リーダー合同)

1回 9月10日 会館会議室 13名

2回 平成30年3月24日 会館会議室 9名

3. 公開事業・啓発活動

(1) 自殺予防公開講演会

厚生労働省補助事業 熊本県医師会館
平成30年2月18日 (来場者：117名)
講師：宮崎睦美氏 (一般社団法人繋 代表理事)
テーマ：「哀しみに寄り添い支え合うということ」

(2) 相談員になるための説明会

平成30年3月30、31日、4月1日 熊本市市民会館会議室

(3) チャリティ事業

8月13日 熊本市国際交流会館ホール (来場者：500名)
テーマ 「輝け！よかもん大集合」

(4) ボランティア週間バザー

11月4日 熊本市下通りサンロード新市街

(5) 部外広報誌「熊本いのちの電話・通信」を発行

7月(通信58号)、1月(通信59号)、3月(通信60号) 各1,000部発行

(6) 内部広報誌「りんりん」を発行

7月(第44号)、11月(第45号)、3月(第46号)



公開講演会講師 宮崎睦美先生



第18回チャリティ公演

4. 運営活動

(1) 第32回開局記念会&第32期電話相談員認定式

6月18日 熊本県総合福祉センター

①表彰

貢献賞表彰 25名
達成時間表彰 500時間達成 7名
1,000時間達成 5名
1,500時間達成 1名
10年活動者 2名

②認定 第32期生 13名

(2) 相談員の更新認定

平成30年3月24日 更新判定会開催
更新認定者 110名



第18回チャリティ公演

5. 各種会議

(1) 理事・評議員会

5月30日 第54回理事会
平成28年度事業報告・決算報告/評議員会開催日程
6月12日 第48回評議員会
平成28年度事業報告・決算報告/新理事選任
6月12日 第55回理事会 新理事長選出
11月10日 第56回理事会 理事長の職務執行状況報告
平成30年3月28日 第57回理事会
平成30年度事業計画・予算計画審議/
理事長の職務執行状況報告

(2) 日本いのちの電話連盟

5月26日～27日 東京

① 定時社員総会

② 全国事務局長研修



全体研修会



研修委員全日研修

表1 資金収支計算書(要約)

(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:円)

勘定科目	予算	決算	差異
事業活動による収支			
事業活動収入	7,594,500	10,166,486	△ 2,571,986
事業活動支出	7,525,000	7,635,014	△ 110,014
事業活動資金収支差額	69,500	2,531,472	△ 2,461,972
設備整備等による収支			
設備整備等収入	0	954,000	△ 954,000
設備施設整備等支出	0	1,500,120	△ 1,500,120
設備整備等資金収支差額	0	△ 546,120	546,120
その他の活動による収支			
その他の活動収入	0	0	0
その他の活動支出	396,000	396,000	0
その他の活動資金収支差額	△ 396,000	△ 396,000	0
予備費支出	0	0	0
当期資金収支差額合計	△ 326,500	1,589,352	△ 1,915,852
前期末支払資金残高	15,174,039	15,174,039	0
当期末支払資金残高	14,847,539	16,763,391	△ 1,915,852

表2 事業活動計算書(決算および予算書)

平成29年度決算 (自)平成29年4月1日 (至)平成30年3月31日
平成30年度予算 (自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日

(単位:円)

勘定科目	29年度決算	30年度予算	
サービス活動増減の部			
収 益	維持会費収益	2,889,288	2,650,000
	賛助会費収益	1,950,000	1,350,000
	講習受講料収益	619,000	883,000
	事業収益	974,686	1,110,000
	共同募金会収益	150,000	0
	善意銀行収益	40,000	40,000
	補助金収益	2,671,000	1,500,000
	雑収益	868,393	558,000
	サービス活動収益計	10,162,367	8,091,000
	費 用	人件費	2,834,191
事業費		1,882,773	1,907,000
事務費		2,918,050	3,255,000
減価償却費		1,902,489	1,657,012
設備整備等特別積立金取崩額		△ 1,339,467	△ 1,044,320
サービス活動費用計		8,198,036	8,675,692
サービス活動増減差額	1,964,331	△ 584,692	
サービス活動外増減の部			
収益 受取利息配当金収益	4,119	4,500	
費用 支払利息	0	0	
サービス活動外増減差額	4,119	4,500	
経常増減差額	1,968,450	△ 580,192	
特別増減の部			
収益 設備整備等補助金収益	954,000	0	
費用 設備整備等特別積立金積立額	954,000	0	
費用 固定資産処分損	0	0	
特別増減差額	0	0	
当期活動増減差額	1,968,450	△ 580,192	
繰越活動増減差額の部			
前期繰越活動増減差額	18,050,385	20,018,835	
当期末繰越活動増減差額	20,018,835	19,438,643	
基本金取崩額	0	0	
次期繰越活動増減差額	20,018,835	19,438,643	

熊本いのちの電話

平成29年度 決算報告 平成30年度 予算報告

平成30年3月28日に30年度予算が
理事会、同年6月28日に29年度決算
が、評議員会におきまして各々承認
されました。

詳細は、表1、表2、および表3の
とおりです。

表3 貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位:円)

資産の部			
	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	17,464,718	18,292,780	△828,062
現金・預金	17,220,092	15,420,370	1,799,722
貯蔵品	0	0	0
有価証券	0	0	0
立替金	5,856	0	5,856
前払費用	36,750	40,950	△ 4,200
仮払金	89,020	107,460	△ 18,440
未収補助金		2,724,000	△ 2,724,000
未収金	113,000		113,000
固定資産	36,373,932	36,380,301	△ 6,369
基本財産	22,740,000	23,136,000	△ 396,000
土地	7,000,000	7,000,000	0
建物	14,740,000	15,136,000	△ 396,000
基本財産特定預金	1,000,000	1,000,000	0
その他の固定資産	13,633,932	13,244,301	389,631
器具備品	3,327,358	3,840,301	△ 512,943
ソフトウェア	506,574	0	506,574
敷金	40,000	40,000	0
建物減価償却引当特定預金	7,260,000	6,864,000	396,000
減価償却引当特定預金	2,500,000	2,500,000	0
資産の部合計	53,838,650	54,673,081	△834,431

負債の部			
	当年度末	前年度末	増 減
流動負債	701,327	3,118,741	△ 2,417,414
預り金	271,409	2,522,529	△ 2,251,120
前受受講料	36,000	99,000	△ 63,000
未払金	393,918	497,212	△ 103,294
固定負債	0	0	0
負債の部合計	701,327	3,118,741	△ 2,417,414
純資産の部			
基本金	30,000,000	30,000,000	0
国庫補助金等特別積立金	3,118,488	3,503,955	△ 385,467
次期繰越活動増減差額	20,018,835	18,050,385	1,968,450
(うち当期活動増減差額)	(1,968,450)	(2,218,108)	(△249,658)
純資産の部合計	53,137,323	51,554,340	1,582,983
負債及び純資産の部合計	53,838,650	54,673,081	△ 834,431

《脚注》減価償却費の累計額 12,843,584円

社会福祉法人 熊本いのちの電話

平成30年度(2018年度) 事業計画

事業方針

1. 電話相談体制の維持、向上

- (1) 養成講座募集活動の強化
- (2) 24時間体制のため深夜帯の協業化の検討
- (3) 電話相談員の研修の充実
- (4) 電話相談員の減少の防止

2. 若年層自殺予防の推進

- (1) 全国センターの優良施策の調査
- (2) 自殺予防施策の実施に向けた検討

3. 財政基盤の強化

- (1) 資金サポートの拡大
- (2) チャリティ事業はじめ資金確保手段の拡大

4. 広報活動の展開

- (1) マスメディア、自治体への積極的な広報活動
- (2) 部内向け、部外向け広報の充実

1. 電話相談活動

- (1) 熊本いのちの電話
365日24時間 2人受信体制
- (2) フリーダイヤル自殺予防いのちの電話
毎月10日 午前8時～24時間
- (3) 熊本地震フリーダイヤル
2019年3月末まで24時間
- (4) 深夜帯の他センターとの協業化

2. 研修活動

- (1) 第35期 電話相談員養成 基礎講座
場所 熊本YMCA中央センター
①開講式 平成30年5月8日
②前期(公開講座) 5月8日～9月11日 18回
③後期(養成講座) 10月2日～3月26日 24回
④修了式 平成31年2月26日
- (2) 第34期生 スーパービジョン(2年目研修)
期間 平成30年4月～平成31年3月
人数 7名(男性2名・女性5名)
- (3) 継続研修
全相談員対象 7研修班構成・月1回実施
- (4) 全体研修
①平成30年6月17日(日)
熊本県総合福祉センター
講師 吉尾天声氏 浄玄寺住職 臨床宗教師
②平成30年11月下旬
熊本県総合福祉センター 講師 未定
- (5) 第43回日本自殺予防シンポジウム
平成30年9月24日(日) 奈良県橿原

3. 公開事業・啓発活動

- (1) チャリティ公演
平成30年8月19日(日)
くまもと森都心プラザホール
監修/中村花誠 出演/花童他
- (2) 第16回自殺予防いのちの電話公開講演会
(厚生労働省補助事業)
平成31年2月予定 講師 未定
- (3) ボランティア週間バザー
平成30年11月開催予定 サンロード広場
- (4) 部外広報誌「熊本いのちの電話・通信」を発行
年間3回発行予定(4月、7月、1月)
- (5) 内部広報誌「りんりん」の発行
年間3回発行予定(5月、9月、1月)

4. 運営活動

- (1) 開局33年記念会&第33期電話相談員認定式
平成30年6月17日(日) 熊本県総合福祉センター
- (2) 相談員の更新認定 平成31年3月
- (3) 第36期養成講座募集 平成31年3月～4月
- (4) 資金サポート 募金式自販機の拡大
黄色いレシートキャンペーン

5. 各種会議

- (1) 理事・評議員会
平成30年5月21日(月) 理事会 平成29年度報告
平成30年6月28日(休) 評議員会 平成29年度報告
平成31年3月下旬 平成31年度計画
- (2) 日本いのちの電話連盟総会、全国事務局長会議
平成30年5月25日～26日 東京
- (3) 第17回九州地区いのちの電話ワークショップ
北九州大会
平成30年9月8日～9日
テーマ「子どもの虐待と家族・社会の病理」



熊本いのちの電話 感謝報告

ご支援をいただきありがとうございました。

1.平成30年度 ご寄付をお寄せくださった方々

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(1) 法人・団体の部

(敬称略・順不同)

MDRTソニー会 緒方 晃成 (株) NTF 寺地 弘幸 NTT西日本 熊本支店 YMCAチャリティゴルフ会 (医)愛育会 福田病院 福田 稠 (株)朝倉製作所 朝倉 吉治 (株)あつまるホールディングス 島田 俊郎 歩み法律事務所 松村 尚美 イオン熊本中央店 一新校区自治協議会 毛利 秀士 出田実業(株) 出田敬太郎 出田法律事務所 出田 孝一 インマヌエル熊本キリスト教会 (株)うしじま酒店 牛嶋 崇 (株)エービーシー 榎 政彦 (名)大橋時計店 大橋 善治 大村法律事務所 大村 豊 オフィス・ムジカ 西嶋 公一 おむすび太郎 高口 恵子 (一財)化学及血清療法研究所 (株)菊池グランドホテル 九州通信産業(株) 川下 龍喜 九州電機工業(株) 福岡 邦博 学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 熊本YMCA 岡 成也	熊本YWCA 熊本医療ガス(株) 白瀬貴美子 熊本学園大学 幸田 亮一 熊本企業開発(株) (社)熊本県共同募金会 荒木 泰臣 熊本県吟剣詩舞道総連盟 熊本市内連合婦人会 (公社)熊本善意銀行 熊本第一信用金庫 豊住 賢一 熊本中央ライオンズクラブ 熊本パレエ研究所 伴 征子 (株)熊本ホテルキャッスル 齋藤 隆士 香覚寺 小山 一行 (有)高翔 高口 裕之 光尊寺 齊藤 真 (有)コムヨシモト 吉本 寛治 さいが総合法律事務所 雑賀 庸泰 (有)沢産業 黒澤慎太郎 (社)福)泗水福祉会 泗水苑 齋藤 禎子 (株)SYSKEN 福元 秀典 (株)システムニシツウ 門岡 慎治 (株)シスニック 古澤 和行	(医)至福会 添島歯科医院 添島 義樹 宗教法人 誠光寺 西部電気工業(株) 熊本 敏彦 セベ産科用品(株) 坪田 隆二 (弁)大知 田中法律事務所 田中 俊夫 ダイニング和YA (株)竹内工務店 竹内 義雄 竹下清税理士事務所 竹下 清 (株)たしろ住設 田代 貴久 千歳公認会計士事務所 千歳 睦男 (株)鶴屋百貨店 久我 彰登 東亜シルク(株) 長野 和男 東京エレクトロン九州(株)及び従業員一同 (株)トウヤ 東家 恭一 遠山歯科医院 遠山 啓介 西田総合保険(有) 西田 至 西日本電材(株) 亀澤 知昭 日本基督教団熊本草葉町教会 日本基督教団錦ヶ丘教会 川島 直道 (医)野尻会 熊本泌尿器科病院 野尻 明弘 (株)肥後銀行 甲斐 隆博 日隈眼科医院 日隈陸太郎	不二高圧コンクリート(株) 岸川健太郎 佛嚴寺 高千穂 哲也、圭子 (有)フットフィール 古莊 貴敏 (株)古莊本店 古莊 貴敏 (宗)法光寺 沖田 芳惇 マックスバリュート田崎店 まつばせレディースクリニック 村本 順一 (株)マルタ號 山田 哲大 美里縫製(株) (株)みどりや 東 静一 宮川輝之法律事務所 宮川 輝之 (株)三宅保険総合企画 三宅 聡 (有)宮崎保険事務所 花田 龍美 明正電設(株) 元田 克秋 元田社会保険労務士事務所 元田 克秋 森本法律事務所 森本 耕司 森山義文法律事務所 森山 義文 ゆうかり調剤薬局 高井 正照 有斐総合法律事務所 井上 陽介 匿名3件
---	---	---	--

(2) 個人の部

(敬称略・順不同)

青木 悟 青木 孝子 赤星 敦 新 圭子 荒木 孝憲 荒木 伸夫 有馬 修二 有吉 利幸 粟津 安和 池田 幸藏 池田 菖子 石川エミ子 市野 和恵 稲尾 貞臣 井上 新	猪本 耀子 今村真佐子 岩浅 真司 岩崎三千恵 岩永 道子 上島 澄雄 上村みどり 宇敷 辰男 江崎 啓子 江崎 弘子 悦 正治 及川 陽 大井 和美 大我 京子 大平 啓二	小笠原嘉祐 緒方 憲男 岡田 洋一 奥田 順子 小澤 徳子 小野寺徳雄 小嶺 正子 小山 善文 甲斐田和子 加塩 弘己 片岡 隆治 片桐 清志 片平 起句 加藤 敏行 金子 義勝	神谷 一恵 神谷 尚孝 河北 敏夫 清永サチ子 清野 健 久保 理茎 久保山嘉男 桑原 浩行 鴻江友紀子 郡山 和代 小路島正臣 小澄 康彦 小田部久美子 後藤 秀昭 齊藤 直子	坂村 哲子 櫻井 孝一 島村 純孝 高木 容子 高杉ノリ子 高橋 英史 武田 哲夫 田代 妙子 田中 勇 田中 一美 田中 信廣 田中 信義 田中 征夫 田上 文蔵 長倉 瑛子	長田 幸基 中野慎一郎 中原 愛子 中村 静代 中村 頌子 中村富貴子 西井くに子 野田 幸孝 野村 清人 芳賀 克己 羽江 忠彦 瀬田 宏子 林 實信 葉山 武志 原 史章	原園 祐子 久野 啓介 開 由美子 平田 亮子 廣石 妙子 広瀬美貴子 福田 秀雄 藤井 輝彰 船岡 和子 古莊 信次 堀 浩善 前田 充彦 前原八寿之 牧 勝美 牧 睦美	松本千鶴子 松山 喬光 水谷 幸子 光永 尚生 三原 種昭 宮崎 拓郎 宮崎美緒子 宮本 進夫 持永 瑞恵、摩子 森崎賀久子 森村 陽子 山内 一郎 山内 武 山道キヨノ 山村 唯夫	山本 了 吉田 秀樹 吉永 圭子 和田 全浩 渡辺 和文 渡辺 誠二 匿名18名
---	---	---	---	--	---	--	---	--

このほか、切手、お茶、コーヒー、お菓子、バザー用品等のご提供がありました。心から感謝申し上げます。

2.平成30年4月1日～6月15日 ご寄付をお寄せくださった方々

(1)法人・団体の部

(敬称略・順不同)

(株)NTF YMCAチャリティゴルフ会 (株)あつまるホールディングス 島田 俊郎 一新校区自治協議会 毛利 秀士 出田実業(株) (名)大橋時計店 オフィス ムジカ (株)菊池グランドホテル (株)木村 九州電機工業(株)	寺地 弘幸 出田 敬太郎 大橋 善治 西嶋 公一 西嶋 公一 木村 光男 福嶋 邦博	熊本YMCA 熊本医療ガス(株) 熊本トヨタ自動車(株) 興繩 義昭 (株)熊本ホテルキャッスル 斎藤 隆士 (医)孔子会 光尊寺 (株)コスギ不動産 (社)福酒水福祉会 (一社)生命保険協会	岡 成也 白瀬貴美子 齋藤 義昭 齋藤 隆士 末永 正義 齊藤 真 小杉 康之 酒水 苑 齋藤 禎子 熊本県協会	セベ産科用品(株) (弁)大知 田中法律事務所 田中 俊夫 ダイニング和YA 竹下清税理士事務所 竹下 清 東亜シルク(株) (株)トウヤ 中村公認会計士税理士事務所 中村 孝彦 西田総合保険(有)	坪田 隆二 田中 俊夫 長野 和男 東家 恭一 西田 和弘	不二高压コンクリート(株) 岸川健太郎 佛巖寺 高千穂 哲也、圭子 (株)古荘本店 古荘 貴敏 (株)みどり印刷社 鬼塚 雅洋 (株)三宅保険総合企画 三宅 聡 (有)都環境開発サービスセンター 康 英一 ゆうかり調剤薬局 高井 正照 有斐総合法律事務所 井上 陽介
--	--	--	---	---	---	--

(2)個人の部

(敬称略・順不同)

有馬 修二 有吉 利幸 伊久美寛志 イチノカズエ 今村眞佐子	及川 陽 大我 京子 小笠原嘉祐 緒方 恵男 小田部久美子	加塩 弘己 片桐 清志 加藤 敏行 金子 義勝 神谷 一恵	神谷 高孝 久保山嘉男 小出 伸介 郡山 和代 小嶺 正子	中野慎一郎 中村 静代 中村 直美 野田 幸孝 羽江 忠彦	濱田 宏子 林 實信 原園 祐子 久野 啓介 開 由美子	藤井 輝彰 本田 節子 前原八寿之 牧 睦美 松下 澄子	松本千鶴子 宮本 進夫 持永 瑞恵、摩子 森崎賀久子 森村 陽子	山村 唯夫 笠 和美 和田 全浩 匿名 8名
--	---	---	---	---	--	--	--	---------------------------------

3.募金式自動販売機設置にご協力いただいている方々

(平成30年5月末日現在)

(敬称略・順不同)

(医)愛育会 福田病院 APパーク桜町 (一財)化血研 本所 (一財)化血研 合志事業所 (一財)化血研 菊池研究所 (一財)化血研 阿蘇支所 菊陽レディースクリニック	北熊本乗馬クラブ (株)九電工 九州電機工業(株) 九州ルーテル学院大学 (医)寿量会 熊本機能病院 熊本県医師会館 熊本市水の科学館	(医)孔子会 孔子の里 金剛(株) (株)SYSKEN 建吉観光土地(株) (株)建吉組 (医)寺尾会 寺尾病院 (医)聖孝会 中村整形外科	和みほいくえん 西日本電材(株) 松尾建設(株) 松尾建設(株) アイディエス現場 松尾建設(株) 北熊本インター現場 松尾建設(株) 新町現場 ルーテル学院高等学校
--	---	--	---

サントリービバレッジサービス(株)、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)の2社のご協力を頂き、自販機によるご寄付の仕組みを準備しております。各自販機設置者様のご支援と上記2社のご協力に感謝申し上げます。

4.書籍等によるご寄附にご協力いただいた方々

(平成30年3月1日～)

(敬称略・順不同)

兵藤 衣重/福嶋由美子

書籍等によるご寄附の受付は、取扱先の事情により平成30年4月末をもって中止させていただきました。これまでのご支援にあらためて感謝申し上げます。

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

2018年4月22日、イオン熊本中央店でイオンギフトカードの贈呈を受けました。

2017年下期のキャンペーン(2017年9月～2018年2月)で熊本いのちの電話に寄せられた「黄色いレシート」総額は3,160,000円。

その1%に相当する額をギフトカードとして贈呈いただきました。「熊本いのちの電話」のボックスにレシートをご投函くださった皆様、イオン熊本中央店様に深く感謝申し上げます。

(引き続き、イオン熊本中央店とマックスバリュエ田崎店でのキャンペーンに参加しております。)

肥後銀行、熊本銀行、熊本第一信用金庫のご厚意で、寄附金お振込みの際の振込手数料を免除いただいております。

これにより、ご寄附の全額が熊本いのちの電話の活動を支える資金となります。

(専用の振込用紙をご利用いただくと、この免除の対象となります。)

各金融機関のご厚意に対しあらためて感謝申し上げます。

贈呈式でのシャッターチャンス



YMCAチャリティゴルフ会 様(右)



熊本トヨタ自動車(株) 様(右)



(一財)化学及血清療法研究所 様(左)

養成講座 事前説明会を開催しました!!

さくらに彩られた熊本城のほとり熊本市民会館で3月30、31、4月1日の3日間、養成講座事前説明会を開催しました。前期講座ではまず自分を知ることから始まります。

「エー、私にはこんなところもあるんだ」と気づき、「なるほど、そんな考え方もありますね」と相手を認める。自分の弱点を知ること、それが強みになります。など、担当者は心を込めて説明しました。「”いのち”と聴くと重たい気がして・・・、”死にたい”と訴える電話ばかりですか・・・」と昨年と同様の質問がかえってきます。

世の中に生き辛さを感じる方が、いろんな思いを吐き出し、また、明日、明日へと時を繋ぐお手伝いをします。時には苦しいこともあります。泣きたいこともあります。ですが、「今日話せて良かった」「勇気を出してみます」との掛け手の言葉にホッと、喜びを感じます。」と説明した。3日間で26名の参加があり、そのうち11名の方が受講されています。

第35期生 電話相談員 養成講座スタート!!

第35期電話相談員養成講座の開講式が去る5月8日熊本YMCAにおいて、福田理事長はじめ各役員の方の臨席のもと開催された。20名の受講生を迎え福田理事長は「ここ数年、自殺数は減少の傾向にあるが、日本が自殺大国であることに変わりはない。それぞれの悩みを解決することはできないが”ちょっと待って”と踏みとどまってもらう事はできる。そのため知識、スキルを学んでください。」と挨拶した。



また、後藤秀昭研修委員長は「自殺は、本人だけではなくまわりの方々を不幸のどん底に落とす。前期の講座は自分を振り返りながら、多様な価値観があること、それを認めることから始まる。日々勉強で長丁場ではあるが宜しくお願いしたい。」と挨拶した。

養成講座 受講者の声



M.N 氏

受講は、自分のためではない!と思っていたけれど、実際に講座が始まってみると、いろんな気づきや再確認があり、結構自分のためになっている。

8月には「育成史」の提出という巨大な山を持っていて、恐ろしいまでに自分と向き合う“覚悟”を私に突きつける。

受話器を取る“覚悟”が、前期終了までにいささかでも揺らげば、この受講は自分のためだけで終わる。

それでも私には大きな財産になるだろうが、私を救ったあの本のような、“誰かのための、きっかけ”に私はなりたい。

T.H 氏

受講のきっかけはポスターです。はじめに目にしたのは、かなり前でした。衝撃的な言葉でした。最近、偶然辛い思いを聞くことがあり、自分はそのとき、なんて対応すればよかったのだろうと振り返っていました。非日常な会話、他の誰かに答えを求めることができない状態。どう答えることが最良だったのかと過ごしているときに、いのちの電話のポスターを見ました。申し込むまでに時間がかかりました。自分は続けることができるのだろうか。何もしないで思い悩むより、行動してみ、人生は後悔が少ない方がよいと思いました。時は戻せません。今のこの瞬間に最善な対応ができるようになりたいです。辛いときを乗り越えて、幸せだと感じてくれる未来を望みたいです。

K.T 氏

不安は募るばかりです。

自分でも役に立てることがあれば・・・。

軽い気持ちで申込みました。講師やスタッフの方々のご配慮で楽しい時間を過ごしています。また、これまでの自分の勝手な思い込み「ハッ」とさせられる内容の濃い講座です。

太陽と月。その捉え方は多種多様。20人いれば、答えも20通りです。絵だけで会話をすること。真意を探るには、質問の仕方、発想の糸口を引き出すことが大事です。傾聴の大切さ、簡単に理解しないこと、解決策を示すのではなく気づいてもらうこと。心に浸みる話ばかりです。でも、実際の電話では?相手の気持ちに寄り添えるのか?無条件に肯定できるのか?緊急を要したときに適切な対応ができるのか?逆に相手を傷つけてはいないか?徹夜で話を聴く心身のエネルギーは持ち合わせているのか?参加して興味もやる気も膨らんでいます。でも不安も同じくらい膨らんでいくのです。もう暫く頑張ってみます。

N.O 氏

講座六回目の変化

「ああ、このままベッドのマットレスの中に沈み込み、ずっと眠り続けたい」

そのように感じ続けた繁忙な日々も、社会活動から引退、毎日が自分のための時間になった。趣味と家事の隅々までやって決して暇はないのに、何となく、どことなく空虚で「今少しの余力を社会貢献しなくてはいけないのではないか」と痛感するようになった。元来、人と関わる仕事、人生を送った私が、この講座に飛びついたのは自然である。

しかし、大変に躊躇もし、自問もしている。互いに名乗らず、面識を持つことなく、電子ラインの向こうの苦しみに何もできようもない。受講から一ヶ月余、考え続け、こじつけた。

知らない「あなた」だからこそ、話せる、聴いてほしい、と願っているのかもしれない。東日本大震災後、“風の電話”のドキュメントを見た。そう、私は「あなた」に心を込め、生の応答をしますよ、そう思えるようになった。

第33回開局記念会 及び 第33期電話相談員認定式

平成30年6月17日（日）熊本県総合福祉センターに於いて、約70名の相談員の参加のもと「第33回開局記念会及び第33期電話相談員認定式」が執り行われました。

「第33期電話相談員」に認定された9名の相談員が緊張の面持ちで入場すると、会場は拍手の渦に包まれました。福田理事長は「1985年に開局して今年で33年を迎えました。いのちの電話は市民活動として始まり、私たちは悩みを解決してあげることはできませんが、死ぬことを思い留まって、自分の抱えている問題について一緒に考えていただく機会になればと思います。日本いのちの電話連盟申し合わせ事項に『いのちの電話の目的は、孤独の中にあつて、時には精神的危機に直面し、助けと励ましを求めている一人一人と、共に「電話」という手段で対話することを目的としています。そこではお互いの思想的・宗教的自由を尊重しつつ、精神的・情緒的に成長し、共に問題解決のために対話を深めていくことを目指します』という文言があります。今日、認定された9名の方々のお働きが大いに期待されています。勉強しながら、対話を深め自殺予防を目的とした「いのちの電話」が「良き隣人」として相談者を支える事ができるようお願いします。」と、お祝いの言葉があり後藤研修委員長や財務委員長、役員の方からもそれぞれの励ましとお祝いの言葉がありました。

第33期生を代表してNさんが「熊本地震直後の養成講座に、こんなときだからこそ、何かをしたい思いから参加しました。学んだことを忘れず、掛け手の背中をそっと支えてあげる姿勢で、相談員を続けます」と感謝と決意を述べられました。

認定を祝う会

今年は第32期生が担当で「祝う会」の始まりです。会場は紅白の幕で飾られ一気に華やかになります。まずは腹ごしらえ、厳選されたお弁当に舌鼓を打ちながらおしゃべりに花が咲きます。”おっとなんだ?? 白衣を着た、ちょっと変なおじさんは・・・”のぞき込む会衆の隙を突いてパーンとクラッカーが弾けます。手品披露の開始です。認定者を巻き込み趣向を凝らした催しが出され笑顔に包まれました。

最後は「切手のないおくりもの」をウクレレの伴奏で大合唱でした。

相談員総会

平成30年度電話相談員総会が開催され、自然災害でなくなられた方への黙祷で始まりました。相談員会会長が平成29年度の活動を報告。新年度の相談員会役員並びに、研修班代表者の紹介、平成30年度の活動計画を資料を基に説明をし承認されました。

会長は「相談者に受容・傾聴・共感をもって、対応を続ける相談員を支え、悩みを共有する会でありたい、そして相談員活動を持続できる心を育みたい」と決意表明をされました。



第33期認定式



認定証



認定を祝う会



32期生作品

平成30年度 第1回全体研修会

日付 平成30年6月17日(日) 熊本県総合福祉センター (於)
テーマ 「なぜ死んではいけないのか」
講師 護法山浄玄寺住職 臨床宗教師 吉尾天声氏
参加 相談員75名

今回の全体研修会は、講師をお招きし、上記テーマについて語っていただいた後、グループに別れて、体験を交えながら感想を延べ合い、活発な討議がなされた。

(講演録抜粋)

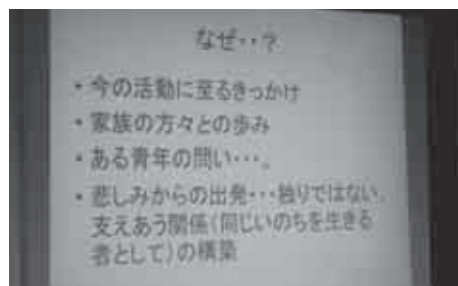
(今回のテーマである「なぜ死んではいけないのか」ということについて) これは私自身も課題にしていることの一つです。今回このような機会を得て、みなさんといっしょに、この課題を共有し、共に学ばせていただくのはとても有り難い思いです。

2011年の東日本大震災は未曾有の大災害でした。これを契機として、苦痛の日々を過ごされている方々をいろいろな形で支援している宗教者の中から、「欧米にはいろいろな悩み、苦悩をケアする専門の宗教家というのがあり、日本でも、そのような役割を持つ人が必要なのではないか」という要望が生まれ、東北大学で臨床宗教師の養成が始まり、私も受けることにしました。そこから東北地方で、そして熊本の地震の際にも支援をさせていただきました。

私の中の支援というのは、人の悩みや苦悩は人との出会いやその人の体験から生まれる哀しみが出発点となり、そこから立ち直る、その状態から解放される、その過程のお手伝いをする事だと思っています。これをしたから、こうでした、よかったですね、というふうになればいいのですが、残念ながらそうはなりません。とても数字的に扱えるものではありません。

相談者の方が危機に遭遇し、それまでしっかりしていると思っていた価値観が揺れ動いてしまう。あるいは失うという体験・・身近な人を亡くす、震災により家から仕事、住んでいた環境などが全て流される、他にも人間関係や恋人を失う(失恋)、地位を失うなど、さまざまな喪失があります。不安、恐怖、孤独感、虚無感、疎外感、そんな危機にさらされたときに、そこから解放されて自分の人生をしっかりと受け止めることができる状態になることが、そこから立ち直るということではないかと考えています。

アメリカの研究者が、100人以上の自殺未遂の方にアンケートをとったところ、面接した人に「あのときに死ねなくて残念だった」と言った人は一人もいなかったそうです。また自死は、一時的な問題や悩みに対して取り返すことができない永久的解決方法を取ることはないか、とその研究者は言っています。「なぜ死んではいけないのか?」は、裏を返せば「なぜ生きなきゃいけないのか?」という問いでもあります。生きるとは何なのか。これは乱暴な言い方かもしれませんが。苦しみながらも、自分の人生を引き受けていくことだと思えます。そういう方々と出会うとき、こちらが思わず育てられることがあります。自分に出会うチャンスももらっていると言ってもいいのでしょうか。ですから「なぜ死んではいけないのか?」は、もしかしたら、その人の内側にあるいのちの感性からほとぼる「生きるって何か?」っていう問いかけかもしれません。苦しみを通して自分の存在に気づいていくということがあるのでしょうか。いろいろな方々が立ち上がっていかれる様(姿)を目の前で拝見し、こういうことがあるのだなと感じました。簡単にいえることではないことはわかっています。しかし、どこかにそういう一つのあり方というものもある、ということも事実なのだと思いながら、もやもやとしつつも語らせていただきました。



社会福祉法人 熊本いのちの電話
平成30年度

役員名簿

平成30年度の役員のご紹介です。

理事会・評議員会の会議出席をはじめとして、維持会員の拡大、広報活動について、またチャリティ事業へのご協力など、様々な分野をご担当頂いています。

2018年(平成30年度)

役職	氏名	勤務先・職業	役職	氏名	勤務先・職業
理事長	福田 惇	医療法人社団愛育会 福田病院理事長	評議員	悦 正治	熊本第一信用金庫 参与
理事	赤星 敦	株式会社SYSKEN 顧問	評議員	大橋 善治	(名)大橋時計店 代表社員
理事	後藤 秀昭	前 九州看護福祉大学社会福祉学科准教授	評議員	岡 成也	熊本YMCA 総主事
理事	池田 幸蔵	不動産・損害保険 池田事務所代表	評議員	小笠原嘉祐	特定医療法人社団ビネル会 ビネル記念病院 理事長
理事	堤 弘雄	一般社団法人夢ネットはちどり 代表理事/法務省 人権保護委員	評議員	平島 有希	アステル法律事務所 弁護士
理事	榎 政彦	(株)エービーシー 社長 広報委員長	評議員	元田 克秋	(一社)全国労働保険事務組合連合会 熊本支部会長
理事	藤谷 裕子	ピアノ教師 熊本いのちの電話研修委員	評議員	吉村圭四郎	瑞鷹(株) 代表取締役副社長
監事	大村 豊	大村豊法律事務所 弁護士	評議員選任・解任委員	西嶋 公一	オフィス・ムジカ 代表
監事	中村 孝彦	中村孝彦税理士事務所 税理士	評議員選任・解任委員	日野 充裕	木山仮設閉地域地域支合いセンター 所長
評議員	出田 信行	大熊本証券 代表取締役会長	評議員選任・解任委員	大村 豊	大村豊法律事務所 弁護士
評議員	井原 宏	熊本トヨタ自動車(株) 専務取締役	評議員選任・解任委員	池田 昌子	熊本いのちの電話 事務局職員
評議員	浦川 務	カトリック健康教会 神父			

電話相談 ボランティアの お誘い

あなたの「声」を「熊本いのちの電話」のボランティアに生かしてみませんか。顔の見えない相談者の苦しみ、悲しみに、あなたの手のぬくもりを「声」に添えて届ける仲間になりませんか。詳しくは事務局にお問い合わせ下さい。

いのちの電話に皆さまのご支援をおねがいいたします

(個人サポート会員・法人サポート会員・随時支援金という形で、どなたでもいつでもご支援いただけます。)
※「社会福祉法人 熊本いのちの電話」への寄付には、税法上の寄付金控除が受けられます。

個人サポート会員：年間 2,000円 3,000円 5,000円
法人サポート会員：年額 1万円 3万円 5万円
随時支援金：時期・金額は随意です。

振込先

口座名/社会福祉法人 熊本いのちの電話
郵便振替 01910-8-11836
銀行振込 肥後銀行 水道町支店 (普)1271746
熊本銀行 下通支店 (普)2122553
熊本第一信用金庫 本店 (普)1202685

編集 後記

先日、全相談員へ研修用として提供された一冊の本を受け取った。関西いのちの電話が広報誌に掲載したコラムを一冊に取りまとめられたものである。その冒頭、「こころの動きを分かち合う 共感(1)」という記事がある。その後段に「(共感とは)・・・かけ手の訴えにこころが動くようになること、相手の感情や考え方を、あたかも自分のものであるかのように受け取り、相手と一つになるような感覚・・・この感覚を養うことが、共感を基にした聴き方となるのではないのでしょうか・・・」という一節がある。「電話」はかけ手も、私たちが相手が見えない「場」で、また知らない同士での交流であるが、そこがかけ手の心休まる場の一つであると信じて、相談室の受話器に向かう。

事務局日誌

平成30年 4月～6月

30年 4月	1日	養成講座説明会(シアーズホーム夢ホール、3/30からの3日間)
5月	22日	イオン黄色いレシートキャンペーン 贈呈式(イオン熊本中央店)
	25日	深夜帯とNAVI活用研究会 鹿児島センター
	8日	第35期電話相談員養成講座開講式
6月	21日	理事会
	25日	日本いのちの電話連盟総会
	11日	募金式自動販売機 化血研への感謝状贈呈式
	17日	開局33周年記念会・相談員認定式 全体研修会
	23日	九州沖縄地区研修担当者会議 福岡センター
	28日	評議員会

毎月10日 フリーダイヤル(08:00～11日08:00まで)

毎月第1木曜日 定例研修委員会、第2金曜日 定例運営委員会



社会福祉法人 熊本いのちの電話 事務局

〒860-8691 熊本中央郵便局私書箱155号
TEL096-354-4343

発行人: 福田 惇 編集: 広報委員会

熊本いのちの電話 検索

赤い羽根共同募金配分金により作成したものです。